

いろどり



昭和20年代中頃 神社前(字赤井川405 現辻木材)

「村外で成功を収めた村出身者から、御神輿の寄付を受け、小学生参加でお祝いを行った時の写真ではないかな」(M氏談)

創刊のあいさつ

情報誌『いろどり』は、村人同士の何気ないつながりや、地域との関わり合いを住民の皆さんに広くお知らせするために、生まれました。

赤井川村は「四季の風景」が美しく、「数多くの特産品」が収穫でき、「多様な住民」が集うイメージと、地域での取組みやサービスが支え合いをもとに、色が変わるように展開していくことを期待して名付けました。

(赤井川村たすけあい隊メンバー 一同)

創刊号
2018. 12
NO.1

赤井川村生活支援体制整備協議体
(赤井川村たすけあい隊)

／ 赤井川村

赤井川村の地域支え合いについて話し合いを行っている

赤井川村生活支援体制整備協議体メンバーの紹介

皆さんの身近な存在になれるよう、協議体に「**赤井川村たすけあい隊**」と名付けました。



●赤井川村社会福祉（民生）委員協議会

民生委員として地域の暮らしに少しでも役に立つことができればと、日々生活支援サービス事業に取り組んでいます。地域づくりのため、委員の皆様と赤井川の宝探しを行っていきます。

●赤井川村保健推進員協議会

保健推進員協議会では、「地域サロンたんぽぽ」を開催し、地区住民との関わり場としています。住民の声をたくさん聞いて、それをまた還元できるような活動ができればいいと思っています。

●配食ボランティアの会

設立者から引き継ぎ、合わせて18年になります。赤井川の季節の食材を中心に作って参りました。これからも私のできること、皆様に協力して頂ける野菜やお米等を地産地消の現場として作り続けたいと思います。

●吉川幸子（一般参加）

赤井川で生まれ育ち、60代も終わりに近づきました。「最期まで村に住み続けていきたい！」そのために今、何かできることをしたく、参加しました。

●グループホームあまらんす

認知症になっても、地域の中で安心して暮らして頂けるように、協議体メンバーとして活動していきたいと考えております。

●グループホームあまらんす2号館

認知症になってもできることがたくさんあります。できることを発見し互いに支え合い、助け合いながら地域の中で笑顔で暮らしていけるよう活動していきたいと考えております。

●赤井川村社会福祉協議会

赤井川社協としましては、これまでも地域福祉推進のために活動して参りました。今回、生活支援体制整備事業の一端を担い、より地域の皆様との連携を強化して参ります。

●赤井川駐在所

今、村が警察に何を求めているのか？今、村でどのような警察事象が発生し、どこに力を入れるべきか。子供、高齢者が笑顔で暮らせるよう、日々考えて仕事をしています。

●赤井川村商工会

地域の会員企業の経営課題解決の支援、イベント等をしております。この協議体の一員として地域内会員企業への情報提供をしていきたいと思います。

●北後志消防組合赤井川支署

この、生活支援体制整備事業に携わり、自分の立場でどうすればいいのか、私も勉強する身でもあります。人と人との関わりの中で、自然と支え合えることが出来る体制をつくっていきたいと思っています。

●赤井川村デイサービスセンター

協議体の一員として住民一人一人が支え合い、安心して暮らしていける村にしていきたいです。デイサービスでは介護申請をしなくても利用できるサービスがありますので、活用して頂きたいです。

●赤井川村地域包括支援センター

安心して自分らしく暮らし続けることができる赤井川村を目指して、支え合いの地域づくり、元気な地域づくりのため、皆様からの相談を活かして日々活動を行っております。

●赤井川村保健福祉課

地域が一体となれるような福祉体制の充実を目指し、協議体メンバーの皆さんや地域の皆さんと一緒に、住みよいむらづくりを進めて行けるように協力させて頂きたいと思います。

●赤井川村介護保険課

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生最期まで続けられる地域づくりを目指して、協議体のメンバーと連携を図り、住民皆様が笑顔で居続けられるよう事業を進めて行きます。

●事務局

自然豊かな赤井川に、今後10年、20年住み続けるには、何が必要なのか。『たすけあい隊』では、住民の皆さんと共に考えながら魅力あふれる村づくりを進めてまいります。

●事務局(兼生活支援コーディネーター)

準備会からスタートして1年が過ぎました。その間に、村にはどんな人たちがいて、どんな関わりがあり、どんな取組をしているのか、ちょっとだけ知ることができました。44年間住んでいても知らないことがたくさんあって、ワクワクします。

■私たちが生活支援コーディネーターです■

村の生活支援コーディネーターには、村全体を対象とする「第1層」と、地域ごとに活動を行う「第2層」があります。第2層は民生委員の活動地区ごとに6名配置予定です。現在、2名が決まりました。



木立真澄
(2町内地区)

赤井川村の皆様こんにちは。木立真澄です。赤井川に来て早40年になりました。色々な場所で皆様にお逢いしておりますが、今回生活支援コーディネーターの立場でもお世話になります。よろしくお願い致します。



藤井眞実子
(曲川・都地区)

こんにちは。おげんきですか。生活支援コーディネーターの藤井眞実子です。地域のなにげない活動や、人と人をつなぐ役割を担えればと思います。気軽にお声がけください。

赤井川村のお宝！

赤井川村シニアエンジョイクラブ

毎月第3金曜日（冬期間は第2, 4金曜日）の生活改善センターからは、すてきな歌声が聞こえてきます。仲間のカラオケを聴きながら、持参の食べ物・飲み物を囲み、和気藹々。まさに“エンジョイ”しているご様子。会員数は27名で40代から80代までの幅広い世代の方が入会しており、「ひな祭り交流会」や「あまらんす夏祭り」では、イベントの盛り上げに一役買っています。



- 場所 生活改善センター
- 月日 毎月第3金曜日
※冬期間 第2,4金
- 時間 18:00~21:00
- 年会費 2,000円
- 入会 どなたでも

ソーラン会

設立から40年以上の歴史がある、フォークダンスサークル。レパートリーは30曲ほどで、毎年「あまらんす夏祭り」への慰問を恒例としています。

「昔は、村内の各地域にたくさんのサークルがあって、衣装もそろえて、発表にあちこち行って、盛り上がっていたんだよ」と、ソーラン会も10年ほど前までは、キロロや倶知安町などたくさんの発表の場があったようです。会員は60代から90代の女性ばかりで、おしゃべりにも花が咲いています。



- 場所 生活改善センター
- 月日 第2,4土曜日
- 時間 10:00~15:00
- 年会費 1,000円
- 入会 どなたでも

赤井川村麻雀クラブ

お昼ご飯、飲み物持参で1日麻雀を楽しんでいます。会場を借りるために代表は決まっていたようですが、「やりたい人が集まってやってるんだ。たばこも酒もやらない。認知症予防だな」とのこと、役員や会則などはないそうです。麻雀クラブでは会員の募集はしていないそうですが、「麻雀卓はあと1卓あるから、やりたかったら来てやればいいんだ。4人必要だけどな」と話されていました。



- 場所 生活改善センター
- 月日 毎週水・土曜日 ※繁忙期は週1回
- 時間 8:30～17:00
- 年会費 なし

この人は誰？ この場所はどこ？

第1回 吉川 幸男さん

農業を営む吉川さんが最近取り組んでいるのは、北海道では大変珍しい「こんにゃくいも」の栽培。地元農家の有志で作り、テレビでも取り上げられました。すでに、道の駅あかいがわ等で販売されており、「これぞ赤井川!」というものを広めていきたいそうです。

また、赤井川村消防団長も勤め、「女性の目線での地域の見守り活動を」との観点から、村にも女性消防団員を配置していきたいという熱い思いをうかがいました。地域では、カラオケグループ『シニアエンジョイクラブ』を主宰する他、来年3月には温泉旅行に行くグループの新設を企画しています。



「地域の人たちが顔を合わせる機会をつくって、みんなが元気に過ごせたら、村も良くなっていくんじゃないかな」と、村の未来について語る吉川さんの笑顔は、まさに元気そのものです。

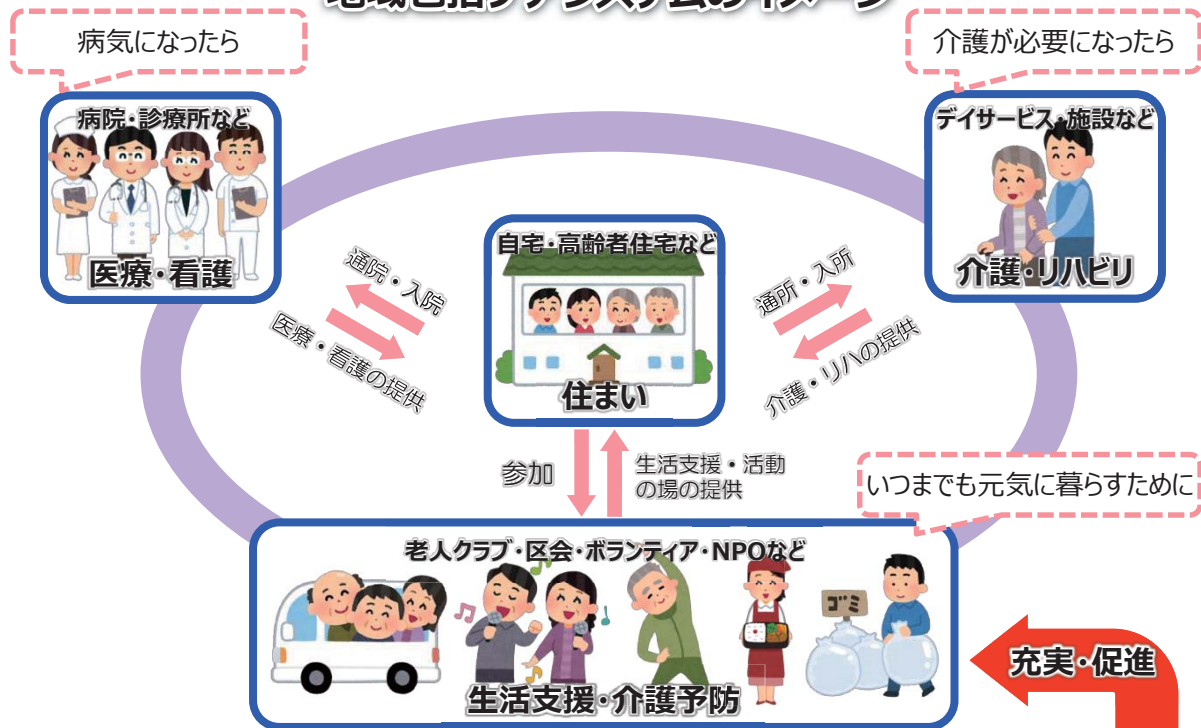


《表紙の写真募集します》

赤井川村の中で撮られた、昔の白黒写真を募集しています。撮られた年代、場所、何をしているところかなど、もしエピソードなどがあれば、あわせてお知らせください。

その他、「赤井川村のお宝!」「この人は誰?この場所はどこ?」に掲載の取組、人物、場所なども募集しています。「生活支援コーディネーター」、「赤井川村たすけあい隊」、「事務局」までご連絡ください。取材に伺います。

地域包括ケアシステムのイメージ



協議体・
生活支援コーディネーター

事業の説明

5年後、10年後、更に先の赤井川村はどんな地域になっていると思いますか？
どんな地域にしていきたいですか？

少子高齢化が急速に進む中で、住み慣れた地域で支え合い、誰もが役割や生きがいを持てるような地域づくりを地域の特性に合わせて進めていくことが重要です。

生活支援体制整備事業は、サービスや制度の整備だけではなく、地域における支え合い活動を住民・地域の視点（住民主体）で地域づくりに取り組むものです。

この取り組みの推進役として「協議体」と「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」という仕組みが作られました。

1. 協議体

⇒地域で支え合い活動をしている人達がメンバーとなり、今やっていること、無理なく今できることなどをみんなで話し合う仕組み。

2. 生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）

⇒協議体と連携しながら、住民の皆さんと一緒に村をより良くするために、地域の様々な活動をつなげ、組み合わせる調整役。

発行日
発行・編集

平成31年1月15日（年4回発行）No.1
赤井川村たすけあい隊（赤井川村生活支援体制整備協議体）
事務局：赤井川村介護保険課
〒046-0501 余市郡赤井川村字赤井川318-1
（赤井川村健康支援センター内）
TEL：0135-35-2050 FAX：0135-35-2051
E-mail：kaigo2@akaigawa.com

